

2026年4月4日 政経塾入塾式

新入生へのメッセージ

松下政経塾塾長代理の神藏孝之です。

今年は、少数精鋭で「運の良さそうな二人」が入塾しました。せっかくなので、私が入塾したときの話をしたいと思います。

私が政経塾に入ったのは45年前です。早稲田を出て、トヨタの広報部に1年だけいて、その後、政経塾に入塾しました。

当時は1980年代、いわゆる「終身雇用制」の時代でした。トヨタ藩、松下藩、あるいは新日鉄藩などと言われていて、途中からその藩に入ることはできず、逆に藩を抜け出すのは「脱藩者」と見なされるような時代だったのです。

ですから、当時トヨタを辞めると言ったときは、「アホじゃないか」と言われていました。そういう風潮だったのです。でも、結果的には、それでよかったと思っています。

その後、塾を出て30歳で会社を作り、40歳の時に株式公開をしました。

現在はインベスターやコンサルとしても活動しています。個人投資家なども務め、合計4社を公開させました。また、銀座を拠点に創業経営者が集まる「JBC」の6代目理事長を務めています。JBCには260社が集まっており、公開企業は48社になりました。

政経塾に入るのは、独立起業家になるのと同じです。政治家だろうが、経営者だろうが、「一人で生きていく」ということになります。

日本人のほとんどは、大きい組織に守られていて、誰かが自分のために動いてくれる組織の中で生きています。

それでも皆さんは、あえて「自分で考えて自分で生きていく」という選択をしました。

そもそも政経塾は、ハーバード・ケネディスクールと比べても、組織、常勤講師、敷地、設備など、あらゆるものが「脆弱」です。

ただ、ハーバード・ケネディスクールの人たちは、「政経塾からどうしてこんなに人材が出たのか」と疑問に思っています。

その原点は、「不安」と「緊張感」、そして「志」だと思うのです。

「不安と緊張感」は、人を成長させます。

例えば、ハーバードやスタンフォードのビジネススクール、オクスフォード PPE の卒業証書であれば、卒業後には最初から 10 万～20 万ドルの収入が保証されます。しかし、松下政経塾の卒業証書は、価値が「ゼロ」です。

でも、だからこそ、それが人間を成長させるドライブになります。極めてよくできた仕組みだと思うのです。

私が入塾したときに、松下幸之助に言われたのは、「たった一人の宮本武蔵が輩出できればいい」「残りの人は肥やしだ」ということでした。これは普通の教育機関では言いません。しかし、ここは「私塾」なので、教育機関とは違うのです。私たちは緊張感と不安の中で生きていますので、結構しぶとく生きています。この「緊張感がある」というのが、すごく大事なのです。コースが決まっておらず、自由度があるからこそ良いのです。大事なのは「出会いと偶然性」です。それをどうやって作っていくか。そこに注力していくと、開ける世界が違ってきます。

松下幸之助は、経営の要諦について、一つは「人間掌握術」だと言いました。これは塾生なら、比較的わかりやすいでしょう。

もう一つは、「宇宙の理法を知ること」だと。当時はこれが分かりませんでした。

しかし今思えば、「天が困った時に助けを出してくれる人になるか」ということを伝えようとしていたのだと思います。

そのためには「運を強くすべき」であり、さらに運が強くなるためには「徳を積むべき」だということです。

実際に、自分のためだけに頑張ると、天井が低くなります。

そこから「もう少し人のために尽くしたい」と思えば、天が助けてくれるということなのだと思えます。

かつては自分が生き延びることを考えていましたが、自分の企業が大きくなったり、仲間を助けたりしていく中で、「天を味方につけること」が大事であり、そのためには何をしないといけないか、ということが分かるようになるのです。

最初から恵まれた環境でやると、緊張感を持つことができません。

松下幸之助は、政経塾生を選抜する際、「運のいい人」「愛嬌のある人」を選んだと言われて

いますが、松下幸之助が勝手に決めていたのだと思います。結果として、100人くらいの卒業生の中から総理が2人も出ました。

ハーバード・ケネディスクールの人たちもいろいろ調べてみましたが、「あり得ない」と思っていました。

私のトヨタの同期は68人いましたが、当時は「そういう塾に行ってもいいのか」と言われました。それでも自分で自分の道を選んだことで、楽しい人生でした。

人生の幸せとは「思い出の総和量」だと思います。

チャレンジをしていかないと、思い出はできません。チャレンジをすることで誰かと出会い、それが思い出になるのです。思い出を作るために、政経塾はとても良い場所だと思います。

松下政経塾の「設立の趣意書」も素晴らしいものです。1980年の時点で、「これからの日本は危ない」と言っています。円安と円高の部分だけを変えれば、その趣意書は今にも通ずるところがあります。

敗戦の年、焼け野原の日本を見て、松下幸之助は「宝の山だ」と思いました。1945年の敗戦から戦犯同然の扱いを受け、そこから1962年にはTIME誌の表紙を飾っています。その時期は、日本が世界で一番成長した時代でした。その、これからバブルに向かっていく真っ最中に、彼は「日本は危ない」と警鐘を鳴らしたのです。

歴史を振り返れば、幕末には1837年に大塩平八郎の乱があり、1853年にペリーが来航しました。そして井伊大老暗殺の後、7、8年くらいで明治維新になりました。今は、その1865年くらいまで来ている時代だと思います。

そういう激動のときに政経塾に入ることは、すごい選択だと思います。きっと良いものを掴めるでしょう。そして、日本にはなかなかない「アニマルスピリット」を持つことができるはずです。

私の飼い猫はもともと野良猫でしたが、家で甘やかしていると「家猫」になってしまいました。これでは自然界では生き残れません。アニマルスピリットは、厳しい環境にいてこそ成長するのです。

これからよろしく願いいたします。

以上